柳津町森林利活用ビジョン策定

第二回検討委員会　議事録（概要版）

令和 6（2024）年 9 月 19 日（木）10:00～12:00
場所：柳津町ふれあい館

【出席メンバー】
出席委員：山下詠子座長（東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科　准教授）
木村憲一郎アドバイザー（富士大学経済学科　教授）
牧野俊一第 2 回講演会講師（東京農業大学非常勤講師）
委員 6 名（町内林業事業者、観光関係者、商工関係者）
出席オブザーバー：高鷲淳一オブザーバー（林野庁関東森林管理局会津森林管理署森林技術指導員）
木村充オブザーバー（福島県会津農林事務所森林林業部　林業課長）
金成隆寛オブザーバー（奥会津振興センター主任事務局員）
事務局：杉原満（柳津町役場地域課長）
佐藤雄一（柳津町役場地域課農林振興係長）
受託事業者：会津里山森林資源育成研究会　会長星比呂志・副会長齋藤洋一・事務局長岩渕良太

第二回検討会　次第

１．開　会　「司会　会津里山森林資源育成研究会・岩渕良太」　※以後、所属は研究会と略称
２．挨　拶　「柳津町地域振興課　課長 杉原満」
３．第一回検討会について　「事務局」
４．先進地研修について
（１）先進地研修の実施概要について「事務局」
（２）研修の成果について「座長、アドバイザイー」
５．議事　「司会：検討会座長　山下詠子様」
（１）　ビジョンを構成する項目について
ア、第二回講演会の概要「牧野俊一様」
イ、具体的な項目について（マインドマップ）「座長、講師、各委員」
Ⅱ　安心安全な森づくりと、これらによる安心・安全な里づくり
Ⅲ　美しく・豊かな森林づくりによる、観光資源の創出について
（２）　50 年後の柳津町の森林のあるべき姿について「座長、各委員」
（３）　ビジョンの作成スケジュールの変更について「事務局」
（４）　次回の検討項目及ぶ次回以降に向けた課題について「事務局」
（５）　ビジョン作成に向けた助言及び情報提供
ア、林野庁の森林作成・林業・木材産業にかかる施策について
「林野庁 関東森林管理局 会津森林管理署　高鷲淳一様」
イ、福島県の森林・林業・木材産業に係る施策について
「福島県 会津農林事務所　木村充様」
ウ、アドバイザーから
（６）　その他
６．その他
（１）　第三回講演会、検討会について先進地視察について「事務局」
（２）　その他
（３）　事務連絡

【内容・議事録】

２.挨拶	
柳津町地域振興課課長 杉原　満様	先般 7 月 31 日山下先生の講演会翌日、山下先生を座長といたしまして第 1 回目検討会を開催いたしました。柳津町ビジョンと各種計画の関係性について協議致しました。内容を各委員会委員の皆様からご意見等をいただきました。 また、その後 8 月 6･7 日と長野県箕輪町に先進地視察ということで夏休み期間中ということもありまして、高校生の皆さんもご参加されました。担当職員からも大変有意義な研修だっていうというふうには聞いております。本日第 2 回の検討会ということになりますが、本日またも山下先生を座長とし皆様からの忌憚のないご意見をよろしくお願いします。
3.第一回検討会について	
事務局	前回は森林林業木材産業関係についてご意見をたくさんいただきましたが、今回それに加えて、安全安心な森づくりと観光産業へ森林の活用といったような観点でご議論いただくっていうことでご案内差し上げております。 第 1 回の振り返りをしたいと思います。柳津町森林利活用ビジョン策定第 1 回検討委員会議事録概要版というのがございます。これをご覧いただきたいと思います。柳津町の森林振興計計画と森林新規整備計画について、ご説明がありました。柳津町の森林林業木材産業情報状況について事務局から説明がありました。その後委員の紹介があり、次にビジョン構成や検討の視点スケジュール等について説明を申し上げました。森林林業木材産業の観点と安心安全な森作りの観点、それから観光産業への活用という観点で検討し、これについて皆様からご意見頂戴しました。 木村憲一郎アドバイザー・高鷲オブザーバー・木村充オブザーバーからは、ご意見をいただきました。皆様からの意見を頂戴しながら、柳津町の森林の状況というのがある程度の皆様と共有でき、それから安全安心・観光といったようなことに繋がった第 1 回目だったというふうに思っております。以上です。
４，先進地研修について	
（1） 先進地研修の実施概要について 事務局	8 月 6・7 日に、長野県箕輪町に先進地研修を行いました。日程は資料の 34 ページでございます。箕輪町様は一足先に森林ビジョンを作っているので、ビジョン作成のお話を伺い、柳津町の森林活用ビジョンに役立つ場所へ行きました。箕輪町は面積が、およそ柳津の半分ぐらいですが、街の真ん中に天竜川が流れて、その河岸段丘で町が成立していて、それから森林率が高い、人工林で植わっているのは主にカラマツですが、柳津町は主に杉です。箕輪町皆町はカラマツと赤松と、そこは若干ちがいますが、その利用についてもそれは今後積極的に検討していく必要があるというような状況は、柳津町とも同じかなと思います。
（2） 研修の成果について 木村アドバイザー	予定していたことよりも、非常に勉強になり今までにない視点もありました。 箕輪町役場の方や信州大の先生、また実際に現場で活躍された方や合同会社ちいもりが実際にそのビジョンを作った方々、実務を担当された方からの説明がありました。非常に大変な作業を経てビジョンができたということがこの方々の説明でよくわかります。 具体的なアクションプランアクションプランというのがあって、5 年後はどこまで場所 10 年後はどこまで行きましょう。50 年後はどこまで行きましょう。そういったそのアクションプランが記載されていました。町民 1000 人へのアンケートをされたという話でした。回答者のうち所有者はわずか 10%で 9 割の方は森林とは関わりのない方々が回答されているというような内容でありました。必ずしも山に近いから回答が多いということでなく、町

	場の方もかなり回答されているということです。そのビジョンを策定する上で、委員の方々のご意見はもちろんですが、町民一人ひとりの声を聞きましたというようなスタイルがとられておりました。 南箕輪村の大芝公園には、カラマツとか赤松とか、広葉樹かなり大径木が多く茂っておりました。遊歩道のようなものが非常に綺麗に整備されておりまして、ウッドチップが敷き詰められていて、非常に歩きやすい状態でありました。素晴らしいなと思ったのは南箕輪村の観光森林課の職場がこの中にあります。 今回ビジョンを町では作られましたが、町民の方に知っていただけるように 7 月にキックオフイベントを行っています。大芝公園の活用についても検討会を作って、そこでいろんな人の意見を聞いて、今の活用に繋がっている。 まとめで、箕輪町と柳津町はバックグラウンドが違うけれども、今ほど申し上げたように非常に多くの意見をいただいて勉強になりました。大変有意義な研修になりました。 箕輪町から今後柳津町と交流を深めたい、ぜひ何かで呼んでくれっていう話もありましたので、そういった意味でも、両町の発展でも重要な、いい流れだというふうに思っております。私からの報告は以上です。
質疑応答	目黒委員：みどりの戦略課・観光審議会というものがあって専門的な課があるっていうのが、そういうところで柳津町もちょっと違うなと思いました。専門的な森林事業者がいないのに専門的な科があるっていう背景はどうしてでしょうか。柳津町と比較して、どういう背景の違いがあるのでしょうか。 木村アドバイザー：結論から言うと、背景までは聞き取れない。 目黒：柳津町だと地域振興課農林係があって農業と林業が一緒になっている。専門的な係っていうよりは全部農業と一緒になっていると思うのですけどが、どこに原動力の違いが出てくるのか。 木村：ネーミングって大切だなと思いました。箕輪町の係長に聞きましたが、通常の林業の仕事もするし、農業的な部分の仕事もあるし、全員が森林を専門でやっているわけではないような話をされる。みどりの戦略課っていうのが、緑が必ずしも森林だけじゃない。長野県って、昔の県知事の影響で緑を使ったいろんなネーミングが多かったと思います。そういう戦略性とかに長けている人たちが多いのかもしれません。
5.議事　【司会：検討委員会座長　山下詠子先生】	
（1）ビジョンを構成する項目について ア、第二回講演会の概要 「牧野俊一様」	昨日は害虫のご当地で問題になります。トビクサレとナラ枯れについて取り上げて説明をしました。今日は概要を簡単に 10 分ぐらいで説明させていただきます。 スギノアカネトラカミキリは、杉に穴をあけて侵入してくる虫です。木の産卵し、幼虫が木を食べて大きく育ってから、出ていきます。出た穴から材の変色や不朽が進み、トビクサレの現象が起きます。防除法、枝打ちをして綺麗にすることや間伐等の施業方法による防除がある。トビクサレが起きる被害材とは言っても、強度的にはほとんど影響がないという試験結果もたくさん出ています。集成材にしてしまえば、色は付いてもほとんど変わらない。虫穴があっても、少しであれば曲げ強度ヤング率は健全材と変わらないっていう結果も出ています。ただ、市場に出て、黒いトビクサレ部があるとどうしても安くなってしまう。特に集成材にすればいいが、単板としては難しい。 現状あるとトビクサレ被害っていうのもこういうふうに使うことは要するに意識改革の必要がある。

	次もう一つのナラ枯れですが、このナラ枯れという被害は三つの性質が関わっています。一つは木種であります。いわゆる被害木です。多くはミズナラ・コナラです。次に虫です。この媒介者であります。カシノナガキクイムシ。この虫自体は木を枯らすのに何にも関係していません。問題はこの木虫が持ち込む病原菌です。この虫は特殊な気管、穴が背中に空いています。メスです。そこにこの病原菌を溜め込んで、木から木へ運ぶわけです。木を枯らすのは病原菌です。病原菌は自分で移動できませんからこの媒介者を使って、木から木に移動してナラ枯れをもたらしている。 被害量を福島県だけでまとめたものですけど、私の知る限り 2000 年西会津に最初の報告がありました。2004 年ぐらいに急激に上がった。そのままずっと推移して行くのかなと思ったが、ごく最近 2020 年ぐらいに倍増 3 倍増になって推移している。 なぜ最近になって被害が増えたかというのは、いくつか説があります。最もコンセンサスを得ているのは、この里山コークスです。昔は里山の広葉樹ナラ類は、薪炭としてよく利用されていました。ある程度太くなると伐ります。萌芽更新といってそれを繰り返していくので、比較的細い木が多かった。だけど、最近は燃料革命以降、薪炭林の利用が少なくなり木が太くなってきた。木が太くなると、この虫は細い木よりも太い木の方に行きやすいです。それはなぜかというと、太い木に入った虫ほどたくさんの子どもを増やしており、それは多分、栄養状態といろんな条件がいいと思います。細い木の方に入っちゃうと、子供の数が少なく、繁殖に失敗します。ですから虫の立場とすれば太い木に入りたいわけです。ですから太い木から枯死していく、いろんなところでデータが出ています。昔から居たという記録があります。江戸時代からナラ枯れの報告もあります。ただ今ほど被害がひどくなかったっていうのは、やっぱり利用してって、あんまり太い木が奥山にしかなかったのかもしれません。 最後に今までの話を要するに、このカミキリの方は枝打ちで軽減できます。ただし被害材といっても強度は問題なく使える。ただナラ枯れっていうのは、里山管理と関係しています。どこを管理して守るか若しくはどこを守らないか。正直ベースで言っちゃうともうほっとくしかない。そんな奥山で太い木を切る訳にはいきません。だけど、ほっといてもはげ山になることはありません。細い木は残ります。跡地をどうしたいかを考えなきゃいけない。
（1）ビジョンを構成する項目について イ、具体的な項目について（マインドマップ） 「座長、講師、各委員」 Ⅱ　安心安全な森づくりと、これらによる安心・安全な里づくり Ⅲ　美しく・豊	目黒委員：安心安全の里づくりで、獣害の問題などがあり、里山とか森林に安心しては入れる。明るい森林で目指す。炭焼っていうこともキーワードにありましたが、モデル地区を作ってレクレーションなどに利用していくことも必要ではないでしょうか。 他にご意見をお願いいたします。はい、お願いします 菊地勇男委員：林業をやっていますが、博士山で子どもたちや周辺住民を集めたミズナラ植栽の計画がある。それと観光の場所でつむじ倉滝というところがある。2 段の滝がある。それを魅せながら、大成沢地区と町で何百人も集まるそば祭りを開いていた。土日には、博士山に登山に来ていて、女性一人でも見かける。そういうのを一つ準備しながら、こういう作業できることを、やればいいじゃないかと思っています。 山下：はい、ありがとうございます。登山のお客さんとか、子供たちとか、参加できるようなイベントですね。 菊地勇男委員：大径木伐採見学会のイベントもやっている。子どもたちの未来のために。 菊地俊男委員：昔は結構柳津地区・西山地区に炭焼きをやっていた。どこにいっても山の中で煙が上がっていた。それがあったから害虫が山に入らなかったと、お年寄りが言って

かな森林づくりによる、観光資源の創出について	いた。炭焼きをしている人が本当に少なくなった。今だとまだ、炭を焼ける人がいるから、指導を受けて若い人や興味のある人に炭焼きをしてもらう。森林づくりや・安心安全な里山つくりに繋がると思います。 菊地勇男委員：菊池大工さんは、会津若松に当時 1 億円の家を建てた。自然の木だけ、建てた。そういったものを子供たちに見せた方がいいのではないか。今の子供に機会を与える。 菊地俊男委員：そば祭りについて、もう何年も中止になっている。ふれあい館で 10 年間続いている。辞めるときにはお客さんに一言だけ「絶対やめないで」あれはやっぱりやるべきです。というか子供たちが自然の中で触れ合うこと体験がいっぱいできます。博士山ですから、水が流れて沢をせき止め、イワナをつかみ。なかなか体験できないです。町の皆さんや役場の方にお願いしておりますけれども、あれは本当にやるべきです。 佐藤委員：観光協会のサポートをしていますが、観光目線で安全と観光でのお話させていただきます。これだけ森林面積がある柳津町。今ある森林公園ですとか、瑞光寺公園といった、目に見えるところにまずは限定して、整備を行い、観光客や町民に安全な森づくりを目に見える形にしていくことから始めてみるのも大事だと思います。 山下座長：非常にエリアが広いので絞っていくという視点とても大事だと思います。 橋本委員：林道や農道だけでなく道路網全体のことですが、柳津町全体が標高高く博士やいったところの林道だけではなく、常に森林の中を走っている感じはあります。その森林整備が進んでいないと倒木で通行止めや、日当たりが悪くて冬期間凍結しやすいということが発生します。なので、間伐や全伐をしてもらって日当たりを良くしてもらう、道路管理者として事業で地域整備をする。交通事故も一種の災害だと思っていますので、安心安全っていう面では必要。 森林公園はありますが、都会の方を呼び込むときに柳津町に来てさらに山に入る必要もないよねという意見も多数聞いたことがあります。まずは町場から進めても良いのかなと。林業から出てくる素材を活用したもので喜んでもらえるものがあるといいなと思います。 目黒委員：観光について柳津町には森林公園・円蔵寺・花火・只見線というものがあります。そういったものを森林整備することで、景色がよくすることでいいとロケーションができる。 山下座長：観光はエリアの外から人を来てもらうっていうイメージが強いと思う。一方で町民の方に使ってもらうという意味では、森林公園を検討会でも意見がでていますが、そこは町民の方がメインターゲットになるかもしれないです。もちろん観光客のターゲットの一つだとは思います。ターゲットがちょっと異なっていますので、それぞれに必要な方針が、少し違ってくると思う。目黒委員がおっしゃったような既にある観光資源の価値をより高めるために森林を整備していく視点重要だと思います。 船木委員：林道を担当しています。道路の脇、山の中を森林の中を道路が走っているという観点からも、実際に林道はたくさんあり、枯れている木もあり、道路にも支障をきたしている。さらに整備が不十分だと土砂崩れの影響も出てくる。 山下座長：道路との関係性、特に接している部分の森林の管理が問題になるという視点とても大事だと思います。特に安心安全なことになりますと、被害を加える可能性があるっていうとどうしても生活圏の話になりますので、そういった観点が大事だと思います。 高鷲オブザーバー：只見線について考えたときに鉄道に乗る人もいれば見る人もいます。鉄道が走っているところ見る立場の視点で言うと、眺めっていうのが大事。展望場所があ

	るかと思いますが、大径木や・危険木で眺めが悪くなる。そういったときに観光道路とかで行う修景伐採があります。眺めが悪いからという目的で決めますが、実際にそういうところをよくするため、整備をやって早めに伐採することで観光資源として活用をしていく。 山下座長：本日欠席している委員からヒアリングをしていますので、事務局からお願いします。 星事務局：東委員よりお話を伺っています。子どものときは、森林公園ができ始めて、お寺の裏から遊歩道があり、遠足で森林公園まで行き餅つきや芋煮会・お弁当食べた思いである。今はハチやクマがいるので、出来ない。アスレチックも利用できない。森林公園の周辺に県知事と桜の木を一緒に植えた。その後どうなったのか気になる。管理人もいなく、森林公園がもったいない。いまはキャンプする人もいる。また、町民センターで日帰り入浴できるのでキャンプもしやすいと思う。コンパクトに動ける。子どもの時に桜並木が綺麗だった。今でも川添とか町民センターの窓からは綺麗で魅力的ですけど、桜並木がなくなってしまったので、駅から遊歩道を、円蔵寺があるので、整理して散策するには良いと思う。 菊地俊男委員：桜について当時柳津に植えた人いる、五十嵐さんと関さん。今は西山にもう一人花咲か爺さんがいる、長坂っていう地名ですけども砂子原の県道に 20 年近く前に植えて、今年からライトアップしている。もう 20 年もすれば名勝になるのでないでしょうか。西山温泉の近くです。実費で植えました。 菊地勇男委員：この前もお祭りがありましたが、中年の人が全然集まらない。子どもは何が必要なのか、中年・高齢者はなにを望んでいるのかということを把握して事業をやったらどうだろうか。 山下座長：とても重要な視点です。 菊地俊男委員：昔はお祭り、やぐらを組んで盆踊り、豊年踊り。西山荘祭り 15 日に行いましたが全然人が集まらない。演奏者が集まらなくなってしまった。 牧野先生：炭焼きはすごくいいと思います。ぜひ技術を持っている方がいるうちに、小規模でもいいので炭焼き窯モデル的にナラ枯れの損害木で炭を作る。キャンプで使って、体験型学習。子供たちに伝えて昔はやっていたのだよっていうようにできるのでないでしょうか。実際それが被害を逆に防ぐに役立つっていうに思えし、ただ伐っているだけでなくちゃんと役に立つのだよと繋がっていく。もちろん費用の問題ありますけど。 星事務局：実際にナラ枯れに効果はありますか？ 牧野先生：煙というよりも木をどんどん使うことによって萌芽更新させる。あまり大きな木になっちゃうと、切っても生えなくなっちゃう。伐って炭焼きに使うなり、チップにするなどして、使うってことが大事です。 山下座長：皆様いろんなご意見いただきましてありがとうございました。たくさんの意見が出たのでまとめて、次回皆さんご覧いただける努力をするようにいたしたいと思います。
(2) 50 年後の柳津町の森林のあるべき姿について「座長、各委員」	星事務局：こういう現状を踏まえて 50 年後の柳津町の森林をこういうような姿にしていくかということが今回のビジョンのです。柳津町のそれぞれの地域や場所ごとに状況は違うと思います。柳津町のいわゆる今観光資源としてある円蔵寺と、その川の景観、それから小巻地区野老沢地区は観光として重要な場所なので、森林は 50 年後を考えて作って、西山地区であれば西山温泉街のところは今桜並木で、という風に整理して作ってさらに、杉の集まっているところは木材生産として重要だから、こうしていきましょうっていうようにそれぞれの地域ごとに考える。安心安全管理という重要な役割があって、それぞれが求

	めるその姿があります。そういうような点でどの地域をどんなふうにしていったらいいでしょうかみたいなものを、今皆さんからいただいた意見をもとに、事務局の方である程度大雑把なものを作りたいと思います。大体その様子がわかる。それについて皆さんからいろいろご意見いただいて、その 50 年後の柳津町のそれぞれの地域のこうしたいなっていうその森林の姿を、次回は議論していければと思います。
（3） ビジョンの作成スケジュールの変更について 「事務局」	事務局星：当初はでビジョンの中間報告 11 月、3 月に最終日の完成。これは変わらないですが、中間報告の段階で、かなり完成させておいた方がいいだろうと、というふうに考えました。当初、年内には 3 回検討会を開いて考えていましたが、1 回増やして、年内に 4 回開いてある程度その完成度の高いものを作っておきたいと思っています。12 月に役場の方で来年度の予算予算案を作りますのでそれに間に合うようにしたいと思います。第 3 回を 10 月に開きまして第 4 回を 11 月に開催したいと思います。10 月 22 日に講演会、10 月 23 日に検討会を予定しております。今回のご講演はきのこの専門家でいらっしゃる、東京農業大学の高畠先生にお願いしております。高畠先生は、きのこの収穫体験とか栽培体験といったものを実際に市町村と一緒に作った経験がある。そういったことで単にその学問的に高度な話もありますが、観光事業関連でも、役立つ話が聞けます。第 4 回は、当初第 3 回でご講演いただいた。予定だった森林療法の竹内さんにお願いしたいと思います。それから 11 月の第 4 回目の検討会ですが、地域振興課長さんとご相談をしまして、西山地区の公民館で行います。講演会の方は、柳津ふれあい館の方でやります。
（5） ビジョン作成に向けた助言及び情報提供	ア、　　林野庁の森林作成・林業・木材産業にかかる施策について、会津森林管理署高鷲淳一オブザーバーから情報をいただきました。（別紙資料参照） イ、福島県の森林・林業・木材産業に係る施策について、会津農林事務所木村充オブザーバーから情報をいただきました。（別紙資料参照）
（5） ビジョン作成に向けた助言及び情報提供 ウ、アドバイザーから	アドバイザー木村： 今日は里山作りと観光創出のいろんな意見をいただいた中で、里山作りに関しましては、一番目が林業資源の活用の話だったですけども、やっぱり木を使いこんでいく。特に先ほど炭のお話ありましたけれども、広葉樹に関しても、そういった木材の利用を通じて、実は安全安心の里作りに繋がる。カシナガ被害も抑えられるし、あるいは見透かすことによって、獣害被害も減るかもしれない。先ほどの炭はとても貴重なキーワードだなと思ってお聞きしていました。すごい炭の文化が根付いている地域なので、炭の復活じゃないけれども、もう 1 回炭をキーワードに新しい木材の起業とかができていくかなというふうに思いました。 あともう一つの安全安心の里作りで、議論にはありませんでしたが、私からの提案は、柳津は地盤が不安定な地域でグリーンタフも一つにも含まれていて、急傾斜地も多く、地形的に危険な場所もいくつかある。実際高森地区では地すべりの復旧工事もまもなく概成だと思いますが、やはり安全安心な里作りのベースにあるのは、危険なところをみんなでちゃんと共有する。山地災害危険地区はここですというような、ベースがあってその上にもう少し木材を利用するだとか、獣害対策をするとかいうことがあってもいいのかなと思いました。本当に生命に関わるようなところの視点として、入れていただくとありがたいなと思いました。 観光資源について、一つキーワードじゃないけどシンボル的なもの、キャッチーなものを一つこしらえるとなり、リーバイスするといいのかなと思います。併せて、森林だけで観光産業を生み出すってなかなか難しいと思うのでその周辺の資源です。観光資源や農業体

	験・木育体験・セラピー、そういう森林だけで全てを完結させるのでなくて、横串を通すような繋がりがとっても大切だと思いました。 森林に関わる人ってとても少ないです。例えば今日いらっしゃっている人や町の職員の方とか、都道府県の職員とか、市町村の役場の職員とか、あとは組合の人とか所有者はある面積以上ですが、人口のどれくらいだと思いますか。計算したら 0.6%です。だから 67%の国土を 0.6%の人たちで、今何とか支えようとしているのが現実です。私はその周辺の人たちをたくさん巻き込んでみんなで支えていく、それって観光資源の一つが、そうやってみんなで支えていくようなチームが必要かなというふうに思いました。 先ほど世代のお話が委員からいただいてとても重要だと思って、世代間で考え方、捉え方は変わってくるし、地域によっても、ゾーニングに繋がるかと思います。地域によってもしかして考え方、捉え方は違うかもしれないので、その辺はビジョン作るときに、きめ細かに考えなきゃいけないかなと、その辺をぜひ期待したいと思います。
6.その他	
（1）　第三回講演会、検討会について先進地視察について「事務局」	（1）第 3 回の講演会・検討会について、講演会 10 月 22 日検討会 10 月 23 日、第 3 回について、先ほど木村先生の方から現場に出ると皆さん意見が出やすいと言うアドバイスがありましたが、第 3 回講演会は通常、検討会は森林公園現場でやります。散策いたしまして、現場でお話をしていきたいと思います。やり方について私は少し検討しています。皆さんが参加できるような形で、実は関係するワークショップに行ったのですけど、それぞれの意見を紙に書いてみんなで 1 人 1 人のご意見を言いやすいようにと、いろんな世代の方がありまして、高校生も入っていますので高校生たちからも意見を聞きたいです。それとでそこでバーベキューを思っていましたが、森林公園は安全上の問題で難しいので、道の駅場所を移して、行いますのでどうぞお楽しみにしていてください。
7、閉会	

以上